

第38回岐阜地方裁判所委員会議事概要

1 開催日時

令和5年1月24日（火）午後1時30分から午後4時00分まで

2 開催場所

岐阜地方裁判所大会議室

3 議題

デジタル化に伴う職場の現状と今後の展望について

4 出席者等

(1) 地裁委員会委員

五十川誠、岩井健、岡本敏美、近藤義仁、斎藤孝、清水博之、志水美和子、鈴木正弘、出口博章、福井康博、森裕之（五十音順、敬称略）

(2) 説明者

民事部裁判官、民事訟廷管理官、民事部主任書記官、総務課課長補佐

(3) 地裁委員会事務担当者

事務局長、事務局次長、総務課長

5 議事

(1) 新委員の紹介

（新委員）近藤義仁

(2) 委員長の選出

(3) 委員長挨拶

(4) 前回の委員会の振返り

総務課長から前回の岐阜地方・家庭裁判所合同委員会（議題「岐阜地家裁における広報活動について～調停制度100周年を迎えるに当たって～」）での意見等を踏まえた岐阜地方・家庭裁判所における取組として、調停制度発足100周年広報企画の実施状況について説明した。

(5) デジタル化の現状と展望についての説明及び意見交換

総務課課長補佐が裁判所のデジタル化が目指すものについて説明をし、続いて、民事部裁判官らによるウェブ会議を利用した模擬争点整理手続等の実演を行った。その後、民事部主任書記官が民事非訟分野におけるIT化について説明を行い、総務課課長補佐が事務局におけるデジタル化の現状と展望について説明した。引き続き実施された意見交換の要旨は、別紙のとおり。

6 次回期日

令和5年7月14日（金）午後1時30分から

7 次回の意見交換の主なテーマについて

未定

(別紙)

意見交換の要旨

(以下、発言者は、委員長：●、委員：○と表示)

1 裁判所からの説明・実演内容に関する感想、質問等

【民事訴訟事件に関する模擬争点整理等手続の実演について】

- バイク事故に係る損害賠償請求事件を題材としたウェブ会議を利用した模擬争点整理手続等を実演したが、率直な感想を伺いたい。
- 民事訴訟事件の争点整理手続等をウェブ会議で行うことは、事務の合理化にも資するし、将来的に主流になっていくものと感じた。ところで、刑事裁判手続においてもデジタル化が進んでいるのか。
- 裁判手続全般にわたり、デジタル化の検討が進められている状況にある。本日説明した民事非訟手続だけではなく、家事手続や刑事手続においても同様にデジタル化に向けた法制審議会での議論が進められているものと承知している。
- 昨年末からオンライン会議の環境整備に着手しているところであるが、裁判所のデジタル化は、非常に進んでいる印象を受けた。
- デジタル化を戦略的に進めているわけではないが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、Z o o m等のウェブ会議を利用するようになった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束した後も、ウェブ会議等は定着していくだろうと考えている。
- 新型コロナウイルス感染症等を契機にウェブ会議等が利用されているところ、ウェブ会議上での議論では、自由に意見が言えるのか疑問がある。
- 本日のウェブ会議の実演では、代理人弁護士のみが参加する場面を取り上げているが、弁護士事務所から当事者本人が代理人と同席してウェブ会議に参加することもある。当事者本人が弁護士と打合せ等をして、その場から裁判手続に臨めるというアクセスのし易さもウェブ会議のメリットと考えている。

【民事非訟事件に関するデジタル化の説明について】

- 債権執行手続を中心とした民事非訟手続のデジタル化の現状や課題、展望等について説明したが、どのような感想を持たれたか。
- 非訟分野におけるオンラインでの申立てや記録の電子化の取組が実現すれば、非常に良いことだと思う。ただ、オンラインでの手続に慣れていない方への対応をどうするのかという問題が考えられるため、IT化によって得た余力をこれらの対応に充てるなどの対策も必要だと思う。
- 御指摘のとおり、オンライン手続等の不慣れな方に対して、いかに丁寧に説明していくのかは一つの課題だと考えている。

【事務局に関するデジタル化の説明について】

- 事務局事務について、ウェブ会議の活用やペーパーレス化等の取組状況を説明したが、どのような感想を持たれたか。
- 電子決裁やペーパーレス化を進めていくことは賛成だが、全てがパソコン上で処理できると考えてしまうのではないかと心配もある。ただ、裁判所のように膨大な書類を処理せざるを得ない機関にとって、ペーパーレス化は必須だと思う。
- デジタル化は時代の流れではあるが、パソコン上でデータを容易に送受信できることから、大量のデータに目を通す気力をなくすという面もあると思う。おそらく二、三十年後には、紙はなくなるだろうと推測している。

2 各委員の職場におけるデジタル化の取組状況等

【デジタル化全般の課題、ペーパーレス化の取組について】

- それぞれの職場において、デジタル化に向けた様々な検討が進められているものと考えているが、デジタル化全般、あるいは、ペーパーレス化に関する工夫例や課題等について紹介いただきたい。
- 職員間のイントラネットを構築しているところ、メールサーバーの容量が上限ぎりぎりになった場合、不要なデータを削除して整理する必要があるが、うまく

いかにウイルスチェックに時間を要することがある。また、ウェブ会議等ではセキュリティ面での課題もあり、データの保管等のヒヤリハット事案を聞くと、これらの技術の向上が不可欠である。

- 相談に関する業務をしているが、これら相談資料は紙での保管が基本である。業務の必要に応じて、過去の資料に当たることもあるので、現在の保存期間を延長すべきとの意見もある。電子データでの保管に比べ、紙での保管はスペース確保や検索方法等に問題があるものと考えられる。
- パソコン更新に併せて庁内LANを試行的に整備したところ、ある部署では1か月の紙の使用量が通常半分になった。今後、紙の使用量を更に制限するなど、ペーパーレス化に向けた検討を進めている。
- デジタル化により利便性が向上する反面、秘匿性に関する問題はあるものと考えられる。電子データの管理方法、利用する通信アプリによる通信状況の安定確保、裁判での当事者等の本人確認の方法といった様々な課題がある。また、オンライン授業等では、相手の表情が分かりづらいなどの不都合な面も指摘できる。
- ペーパーレス化が進んでいる一方で、電子データのセキュリティ確保が非常に厳しいものとなっている。一つ一つのファイルの暗号化や保管する際のパスワードの設定など、漏洩しないよう情報管理には十分留意している。

【ウェブ会議の活用について】

- ウェブ会議の活用状況等について、工夫例などがあれば伺いたい。
- 打合せの場でウェブ会議を利用している。ただし、外部の機関とウェブ会議をする場合は、データが流出しないよう情報の取扱いには十分注意している。
- 岐阜管内の支部のほか、東京等の遠方で主催する研修においてウェブ会議を利用することがある。ただし、セキュリティ上の観点から、外部の講師を招く場合は、いずれかの部署にお越しいただくこととしており、当該講師と直接つなぐことはしていない。
- 職場内部でウェブ会議を利用することはないが、サテライト会場での相談業務

等で利用している。マスクを着用してウェブ会議を行うとお互いの声が聞きにくくなるため、自然と声が大きくなってしまったといった感想は聞いたことがある。

- Zoom等に搭載されたグループ機能等を活用し、グループ討議や全体の協議を行うことで、協議会の合理的な運営につながるものとする。

【デジタル化に伴う働き方の見直しについて】

- ワークライフバランス、働き方の見直しといった観点から、委員の各職場で何か工夫していることがあれば伺いたい。
- 働き方の見直しによって物流業界の売上げや利益が減少するという2024年問題が指摘されているところである。デジタル化は、事務の効率化や残業を規制することで働き方を考えなさいという政府からのテーマの投げかけだと思う。
- リモートワークが推奨されているところ、時間の節約や不必要な雑談等がなくなったように感じる。今は職場に居なくても仕事ができる環境なので、女性の働き方も変わりつつあり、男性の育児休暇の取得も増えている。
- 障害者団体の組織であるが、新型コロナウイルス感染症が転機となって、ウェブ会議が利用されるようになった。在宅で様々なことが行える可能性もある一方で、戸惑いもある。社会の流れを一人一人が考える良い機会だと思う。

【デジタル化のメリットを生かすための工夫策等について】

- 司法サービスの充実という観点からデジタル化のメリットを最大限に生かすためには、どのような工夫等が考えられるか御意見を伺いたい。
- デジタル化を進めるに当たっては、利用者がいかにスムーズに裁判所の情報にアクセスできるかを考えるべきであり、不慣れな利用者でも使いやすく、また、裁判所ごとに異なる書式を作るのではなく、統一した書式を作成することが望まれる。
- 高齢化が進み、今後ますます高齢者の利用が増えると思うので、デジタル化に対応した人材育成を進めるべきと考える。
- 本日は、様々な貴重な御意見をいただいた。今後の参考にさせていただきたい。